

校長先生に紹介していただいた本を図書委員が読んでみました!

松下幸之助『物の見方考え方』

「役に立つ人間」という章の「人間の本質」について書かれた文章が心に残りました。人間には必ず弱い面があるけれど、日本は今、平和だから人間の真実の姿が明るみにならないのです。

私も心の中に弱い部分があるので、自分の行動に責任を持つことが大切だと感じました。(副委員長 田中)

内村鑑三『代表的日本人』

この本に出てくる四人の歴史に名を残した人物の生き方の中で、二宮尊徳が特に印象に残りました。今の私たちは、勉強できる環境に感謝しなくてはいけないと思いました。(副委員長 田中)

小川光夫『棟梁』

特に印象に残ったのは、「他人はどのような仕事をしているか知りたい、見たい、は山々なれど、そこは我慢」という言葉です。自分のやり方・考え方を工夫することの大切さを感じました。(委員長 藤田)

インタビュアーを終えて

委員長 三年 藤田智也

かなり緊張して質問の仕方や流れなど、思うように進められなかったのですが、高校生活の中でも印象に残る貴重な経験となりました。

校長先生、ご協力いただき本当にありがとうございました。

県立図書館 ボランティア体験記

例年夏休みに行われていたが、今年度はコロナウィルスの影響で日程を短縮し、各校一名の参加に限られました。本校からは三年の飯塚葵さんが参加しました。

初めてのボランティア活動でも緊張していました。一日目の研修会では、ラベルの仕組みなど図書館に関する知識を身に付けました。

二日目は、実際の作業を行いました。段ボールを並べたり、大量の本を運んだり、力仕事も多くて、図書館の仕事内容は多岐にわたることを実感しました。配架も慣れるとスムーズにできるようになりました。

その後、ビブリオバトルにも挑戦しました。不安はありましたが、話していくうちに緊張もほぐれて五分間プレゼンできました。他の人が紹介した本は、どれも魅力的で、たくさんの方に本に出会うことができました。続いてPOP作成を行いました。

書店や図書館では、よくPOPを見かけますが、実際に作ると難しいと実感しました。自分が見たPOPを見て、本を手にとってくれる人がいたら嬉しいです。



★入試の活動実績にボランティア活動が必要とする学校もあります。興味のある方は来年度、是非参加してみてください。

高商図書館利用案内

★高商図書館について

開館時間 8:40~16:50

休館日 学校がお休みの日
(長期休業中は別にお知らせします。)

貸出冊数・期間

ひとり 10冊 2週間
(禁帯出資料は一夜貸出します。)

施設・設備

■蔵書数 約21,500冊

■座席数 54脚

■雑誌

『ダ・ヴィンチ』『ノンノ』

『FINEBOYS』

『日経エンターテインメント』など

■新聞「朝日新聞」

※上毛・読売・毎日・日経・日経MJ
一日遅れで閲覧可能

■インターネット検索用PC2台



★図書館のサービス

① 貸出

- 必要な資料を貸出します。
- 保護者の方も、生徒さんを通して利用できます。
- 毎年7月の面談期間に一般開放も行っています。
- 卒業生も、連絡をいただければ利用できます。

② リクエスト・予約

★読みたい本が図書館にない → **リクエスト**

購入できない場合も、公共図書館等から借りることができます。カウンターに用紙があります。

★読みたい本が貸出中 → **予約**

返却されたら優先して借りられるようにお取り置きしておきます。カウンターで係に声をかけてください。

③ レファレンス

調べたいこと、探している本など気軽に質問してください。司書がお手伝いします!

○ 上野 恭子 先生(英語科)

ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー
ブレイディみかこ 著(新潮社)



「頭が悪いってことと無知ってことは違う。知らないことは、知るときが来れば、その人は無知ではなくなる」

同級生の差別発言に戸惑う息子が、その子はバカなのかと聞いたときに著者が言った言葉です。そしてこの息子は差別発言少年が「知らない」ことを根気よく教え、彼と親友になっていきます。

この本にはイギリスに暮らす日本人の著者とその家族の周りで起こるさまざまな出来事が描かれているのですが、人が生きる上で大切にしていきたい何かを教えてくれているように思います。

本屋大賞2019年 ノンフィクション本大賞受賞
多様性 # ロックな語り口



○ 中原 雪香 先生(養護教諭)

馬鹿ブス貧乏で生きるしかないあなたに
愛をこめて書いたのを読んでください。



藤森かよこ 著(ベストセラーズ)

ふざけた題名だが著者は大学教授で研究者、真面目な本である。私は馬鹿ブス貧乏であったのに、のほほんと若い時を無為に過ごしてしまった。

10代の頃にブスは如何に生きるか戦略を練っておけばよかったと後悔している。本書には特別な才能が無い人間がひとりで生きて行く為の現実に基づいた知恵が書いてある。そこには「心を磨け」等という抽象論はない。ちなみに本書でのブスの定義は顔やスタイルで食べていけない人、馬鹿の定義は一を聞いて一を理解するのがやっとな人、貧乏の定義は賃金労働をしなければ食べていけない人のことである。誤解無きようにお願いします。

自立 # 生きる知恵



○ 小久保 佑亮 先生(国語科)

今夜、すべてのバーで 中島らも 著(講談社)

ジミ・ヘンドリクスがドラッグに酩酊しながら名盤『Electric Ladyland』を完成させたように、ひどいアルコール中毒の中島らもが書いた半自伝的小説。平然としているが、人は誰しも弱く、様々な事情を抱えながら生きている。

「忘れたいけれども、忘れることができないことがあるから人は酒を飲む」←深酒している人に優しくなれる一冊です。(笑)

中島らも # 名言



○ 松本 沙知 先生(事務)

縄文人に相談だ

望月昭秀 著(KADOKAWA)



自分の顔が嫌い、彼氏がダサイ、手汗がひどい…現代人が抱える90の悩みを縄文人的価値観でアドバイスしている本書。

友達や親の目を気にしたり、SNSの反応にヤキモキしたり。なんだか面倒くさ

くなっちゃう今日この頃…。

縄文人(のふりをした現代人)の答えは、欲しかった答えじゃないかもしれないし、相当噛み合っていないかもしれない。だけど読後はその悩みがどうでもよくなってしまおうのが本書の魅力です。

縄文時代 # 土偶萌え
悩みは貝塚に捨てる



○ 伊勢木 悟 先生(保健体育科)

始皇帝 塚本青史 著(講談社)

漫画・アニメで人気の『キングダム』。春秋戦国時代に秦国の王、嬴政が主人公李信とともに中国統一を目指す物語。知ってる方も多

いと思いますが、やはりアニメですので作り替えられた部分が多少あったりします。そこで、歴史に忠実に淡々と書かれたこの本を推薦します。

始皇帝 # キングダム # 歴史

